

第253回郵政民営化委員会後 委員長記者会見録

日時：令和4年10月28日（金）18:00～18:04

方法：Web会議

○司会 それでは、お時間となりましたので、ただいまから郵政民営化委員会、山内委員長によりまず記者会見を始めさせていただきます。

本日もウェブ方式の会見としておりますので、大変恐縮ですが、御発言をされないときにはマイクをミュートにさせていただきますように、御協力をお願いいたします。

会見の進め方ですが、冒頭、山内委員長に御発言をいただきまして、その後、質疑応答を行います。

それでは、山内委員長、よろしくお願いいたします。

○山内委員長 郵政民営化委員会委員長の山内でございます。よろしくお願いいたします。

本日の郵政民営化委員会でございますが、その概要について御説明申し上げます。

資料については、お配りしているとおりでございます。

本日は、株式会社ゆうちょ銀行及び株式会社かんぽ生命保険から、資産運用の高度化、これについてヒアリングを行いました。

議事の内容については、配付資料を御確認ください。

まず、議題1でございますけれども、資産運用の高度化について、これは、次のような質疑がございました。

ある委員から有価証券における国債比率が、他の生保は40%ぐらいなのに対して、かんぽ生命は70%程度あると。今後もこの水準を維持していくのかというような御質問がございました。

これに対して、かんぽ生命から、他の生保は長い歴史的背景もあって、株式の評価益や内部留保の比率が当社と比較してかなり潤沢にあると。当社は、政策株等も持たないため、株式は全て純投資株となると。評価益の水準や資本の厚みも他の生保と比べてやや薄い。収益追求資産を他の生保と同程度まで上げるのは、リスクバッファの関係から困難であって、日本国債を中心とする保守的な運用を取らざるを得ないというものでございました。

それから、別の委員からは、次のような御意見がございました。これも質問ですね、ESG投資や社会貢献について、ゆうちょ銀行より、かんぽ生命のほうが強調されていると感じたと、方針の違い、立場の違いがあるのかというものであります。

これに対して、かんぽ生命から、業態の違いが大きいと思っている。生命保険として命や健康に直接関わりながら長期投資を行うという観点で、生保他社もESGに力を入れており、我々も同様に市場に対してアプローチしていきたいという御回答がありました。

それから、ゆうちょ銀行からは、当行は銀行であるが貸出を行っておらず、アセット業務が多いので、ESGについてどのように開示していくか悩ましいところであると。そし

て、基本的なスタンスは、開示できるものは積極的に開示していきたいと考えている。当行と同様な銀行がないため、E S G等の対応を自ら切り開いていかなくてはならないと、こういう意味でチャレンジしていると、こういう御回答をいただきました。

以上が議事の概要でございます。何か御質問があれば、お願いいたしたいと思いますが、よろしくお願いいたします。

○司会 それでは、質問をお受けいたします。御質問がある方、御発声または挙手ボタンでお知らせください。いかがでしょうか。

それでは、御質問ございませんでしょうか。

それでは、御質問がないようですので、本日は、これにて会見を終了いたします。

山内委員長、それから本日御出席の皆様、どうもありがとうございました。

○山内委員長 どうもありがとうございました。

以上